

令和5年度 全国学力・学習状況調査 江津市の結果概要

I 調査の概要

江津市教育委員会 学校教育課

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査の対象

(1) 国・公・私立学校の以下の学年の原則として全児童生徒を対象とする。

ア 小学校調査

小学校第6学年、義務教育学校前期課程第6学年、特別支援学校小学部第6学年

イ 中学校調査

中学校第3学年、義務教育学校後期課程第3学年、特別支援学校中学部第3学年

(2) 特別支援学校及び小中学校等の特別支援学級に在籍している児童生徒のうち、調査の対象となる教科について、以下に該当する児童生徒は、調査の対象としないことを原則とする。

ア 下学年の内容などに代替して指導を受けている児童生徒

イ 知的障がい者である児童生徒に対する教育を行う特別支援学校の教科の内容の指導を受けている児童生徒

3 調査実施日

令和5年4月18日(火)

4 調査の内容

(1) 教科に関する調査

国語、算数・数学、英語はそれぞれ次の①と②を一体的に出題

①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等

②知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力 等

(2) 質問紙調査

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

5 調査を実施した学校数・児童生徒数

校種	学校数	児童生徒数
小学校	7校	149名
中学校	4校	128名

II 小学校の結果

(1) 各教科に関する調査の結果

	平均正答率(%)						
	江津市	島根県	全国	県との差		全国との差	
国語	67	65	67.2	+2.0	○	+0.2	-
算数	57	59	62.5	-2.0	▲	-5.5	▲

○：市が全国・県を2ポイント以上、上回るもの
－：市と全国・県の差が2ポイント未満のもの
▲：市が全国・県を2ポイント以上、下回るもの

【小学校・国語】 (・概要 ○成果 ●課題)

- ・平均正答率は全国平均並み、県平均を上回った。
- ・学習指導要領の内容「言葉の特徴や使い方に関する事項」「話すこと・聞くこと」は全国平均を上回ったが、「情報の扱いに関する事項」「書くこと」は全国平均を下回っている。
- 「漢字を文の中で正しく使う」ことや「日常でよく使われる敬語について」は理解できている。
- 「目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめる」ことはできている。
- 情報の扱い方に関する事項に課題が見られる。
- 「目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約する」ことに課題が見られる。

<分類・区分別集計結果>

学習指導要領の 内容	対象 設問数	平均正答率(%)						
		江津	島根	全国	江津－島根		江津－全国	
話すこと・聞くこと	3	73.6	70.6	72.6	+3.0	○	+1.0	-
書くこと	1	20.1	22.6	26.7	-2.5	▲	-6.6	▲
読むこと	3	69.4	68.0	71.2	+1.4	-	-1.8	-
知識及び技能(言葉の特徴や使い方に関する事項)	5	73.3	70.9	71.2	+2.4	○	+2.1	○
知識及び技能(情報の扱い方に関する事項)	2	59.4	61.1	63.4	-1.7	-	-4.0	▲

【小学校・算数】

- ・平均正答率は全国平均・県平均を下回った。
- ・高正答率者が全国と比較して少ない。
- ・全領域について全国平均を下回っている。
- 一の位が0の二つの2位数について、乗法の計算はできている。
- 図形を構成する要素に着目して、基本的な図形の意味や性質についての理解に課題がある。
- 伴って変わる二つの数量の関係に着目し、表や式を用いて変化や対応の特徴を記述することに課題がある。

<分類・区分別集計結果>

学習指導要領の 領域	対象 設問数	平均正答率(%)						
		江津	島根	全国	江津－島根		江津－全国	
数と計算	6	63.8	63.8	67.3	±0	-	-3.5	▲
図形	4	40.3	43.3	48.2	-3.0	▲	-7.9	▲
測定	0							
変化と関係	4	62.9	66.6	70.9	-3.7	▲	-8.0	▲
データの活用	3	60.0	62.8	65.5	-2.8	▲	-5.5	▲

(2) 児童生徒質問紙・学校質問紙調査(意識調査)

学校生活・自尊感情・自己有用感に関わること

- 「人が困っているときは、進んで助けている」「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」と回答した児童が全国・県を上回っている。
- 「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う」「人の役に立つ人間になりたい」と回答した児童が全国・県を上回っている。

学習に関わること

- 「学習の中で PC・タブレットなどの ICT 機器を使うのは勉強の役に立つと思っている」と回答した児童が全国・県を上回っている。
- 「英語の勉強が好きである」「将来、積極的に英語を使うような生活をしたたり職業についたりしたい」と回答した児童が全国・県を上回っている。
- 「前年度までに受けた授業で、PC・タブレットなどの ICT 機器を週1回以上使った」と回答した児童が全国・県を下回る。

Ⅲ 中学校の結果

(1) 教科に関する調査の結果

	平均正答率(%)					
	江津市	島根県	全国	県との差		全国との差
国語	70	70	69.8	±0	-	+0.2
数学	49	48	51.0	+1.0	-	-2.0
英語	36	40	45.6	-4.0	▲	-9.6

○：市が全国・県を2ポイント以上、上回るもの
—：市と全国・県の差が2ポイント未満のもの
▲：市が全国・県を2ポイント以上、下回るもの

【中学校・国語】

- ・平均正答率について全体として全国・県との差は見られない。
- ・領域別では「話すこと・聞くこと」「書くこと」は全国よりも上回っている。「読むこと」は全国と差は見られない。
- 聞き取ったことを基に自分の考えをまとめて書いたり、文章を読んで理解したことを知識や経験と結びつけて自分の考えを広げたりすることはできている。
- 歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読むことや古典の原文と現代語を対応して読むことはできている。
- 観点を明確にして文章を比較し、表現の効果について考えることは課題がある。
- 文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えることは課題がある。

<分類・区分別集計結果>

学習指導要領の 内容	対象 設問数	平均正答率(%)					
		江津	島根	全国	江津—島根		江津—全国
話すこと・聞くこと	3	83.9	81.5	82.2	+2.4	○	+1.7
書くこと	2	63.3	61.2	63.2	+2.1	○	+0.1
読むこと	4	62.1	62.9	63.7	-0.8	-	-1.6
知識及び技能(言葉の特徴や使い方に関する事項)	2	61.7	70.1	67.5	-8.4	▲	-5.8
知識及び技能(情報の扱い方に関する事項)	2	63.3	62.7	63.4	+0.6	-	-0.1
知識及び技能(我が国の言語文化に関する事項)	3	79.2	75.8	74.7	+3.4	○	+4.5

【中学校・数学】

・平均正答率について全国平均を下回り、県平均とは差はない。

・「データの活用」領域は全国を上回り、「数と式」「図形」「関数」領域は下回っている。

○四分位範囲や箱ひげ図の意味を理解し、複数の集団のデータの分布傾向を比較し、数学的な表現を用いて説明できる。

○事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することはできている。

●数学用語（「自然数」）の意味理解や反比例の理解に課題がある。

●「図形」において根拠を基に説明することに課題がある。

<分類・区分別集計結果>

学習指導要領の 領域	対象 設問数	平均正答率(%)						
		江津	島根	全国	江津—島根		江津—全国	
数と式	5	59.7	58.9	63.0	+0.8	-	-3.3	▲
図形	3	30.3	29.4	33.2	+0.9	-	-2.9	▲
関数	4	46.9	48.4	51.2	-1.5	-	-4.3	▲
データの活用	3	53.3	48.6	48.5	+4.7	○	+4.8	○

【中学校・英語】

・平均正答率について全国・県ともに下回っている。

・低正答率者が全国と比較して多い。

○「道案内」の場面で、必要な情報を聞き取ることができている。

●「概要」や「要点」を読み取ったり、「事実」と「考え・気持ち」を整理しながら読んだりすることに課題がある。

●求められているテーマや場面、状況に合うように既習事項を応用しながら英文を書くことに課題がある。

<分類・区分別集計結果>

学習指導要領の 領域	対象 設問数	平均正答率(%)						
		江津	島根	全国	江津—島根		江津—全国	
聞くこと	6	48.1	52.5	58.4	-4.4	▲	-10.3	▲
読むこと	6	43.3	46.2	51.2	-2.9	▲	-7.9	▲
話すこと[やり取り]	0							
話すこと[発表]	0							
書くこと	5	12.7	17.3	23.4	-4.6	▲	-10.7	▲

(2) 児童生徒質問紙・学校質問紙調査（意識調査）

学校生活・自尊感情・自己有用感に関わること

○「学校に行くことは楽しい」、「友達関係に満足している」生徒が全国・県を上回っている。

●「自分には良いところがある」と回答した生徒が全国・県を下回っている。

学習に関わること

○「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる」と回答した生徒は全国・県を上回っている。

○「国語の勉強が好きである」「国語の授業の内容はよくわかる」と回答した生徒が全国・県を上回っている。

- 「前年度までに受けた授業で、PC・タブレットなどの ICT 機器を週1回以上使った」と回答した生徒は全国・県を大きく下回っている。
- 「前年度までの英語の授業でスピーチやプレゼンテーションなど、まとまった内容を英語で発表する活動が行われていた」「英語の授業がよく分かる」と回答した生徒が全国・県を下回っている。

Ⅳ 今後の対応

全国学力・学習状況調査結果をふまえ、市内小中学校で次のような取組が推進されるよう指導主事による学校訪問等を行い各学校への支援を行う。

◇授業の質の充実

- ・子ども達が知識及び技能を確実に身に着け、それらを活用しながら主体的・対話的で深い学びの視点での組織的な授業改善が推進されるよう、「江津市学力育成サイクルプラン」の充実を図る。
- ・学習指導要領で目指す資質・能力を明確にした授業設計を行う。
- ・各校で学力の成果（強み）や課題（弱み）を把握し、結果に基づいた個別最適な補充学習や発展学習等を進める。
- ・組織的に対策を立て、各学年、各教科等との連携をしながら、学校全体で児童生徒への学習内容の定着を図る。
- ・授業で学んだ知識及び技能を子どもたちが繰り返し活用しながら、根拠をもとに自分の考えを表現したり、友だちの考えと比較・検討したりする場面を設定する。

◇ICT 活用の推進

- ・児童生徒の学びを深めるために ICT を効果的に活用し、授業改善を図る。
- ・児童生徒の個別最適な学びを保証していくために、自分に合った学び方を自分で選択できるように ICT 等を活用する。

◇家庭学習の充実

- ・家庭学習の内容充実、習慣化を図るために、学校での学びと関連した課題や子どもが主体的に取り組めるような課題の提示をする。
- ・タブレットドリルや学習プリント配信システムを活用する。

◇地域に関わる学習の充実

- ・児童生徒の地域への愛着や貢献意欲を高めるために、引き続き「江津市ふるさと・キャリア教育」を推進する。
- ・児童生徒自らが問題を発見し、課題解決への道筋を見通しながら解決方法を考える場面を設定する。